

平成 25 年度特定健診実施結果の分析について

岩手県環境保健研究センター

I 対象及び方法

1 対象

沿岸 12 市町村（大船渡市、陸前高田市、釜石市、大槌町、宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村、久慈市、普代村、野田村、洋野町）。

2 集計したデータ

平成 20 年度～平成 25 年度の 6 年間に、沿岸 12 市町村国民健康保険が実施した特定健診の受診者のデータを集計対象とした。

平成 20 年度～平成 24 年度はいわて健康データウェアハウスで収集したデータを、平成 25 年度は特定健診の受託機関である公益財団法人岩手県予防医学協会が実施したデータを用いた。

なお、データは、個人を識別不可能とし収集しているため、受診者の被災者、非被災者の区別はされていない。また、対象は、市町村国民健康保険加入者のうち、特定健診の実施年度中に 40～74 歳となる者（実施年度中に 75 歳になる 75 歳未満の者も含む）である。

3 分析項目と判定値

分析対象としたのは次の 11 項目で、各項目の判定値は別紙 1 に示した。なお、空腹時血糖と HbA1c は、年度ごとのデータにバラつきが大きかったことから経年比較はできないと判断し、今回の分析対象から除いた。

1) 健診検査項目

メタボリックシンドローム、BMI、血圧判定、中性脂肪、HDL コレステロール
LDL コレステロール、AST(GOT)、ALT(GPT)、 γ -GTP (γ -GT)

2) 標準的な質問票項目

血圧を下げる薬の使用状況、コレステロールを下げる薬の使用状況

4 分析方法

1) 項目ごとに総受診者数に対する次の判定区分に該当した受診者数の割合を算出し、その割合の推定※を行った。

- ・メタボリックシンドローム判定：「基準該当」と「予備軍該当」の和
- ・BMI：「肥満」
- ・血圧判定：「正常高値圧」と「高血圧」の和
- ・上記以外の健診検査項目：「保健指導対象」と「受診勧奨」の和
- ・血圧、脂質服薬：「服薬あり」と回答した者

2) 95%信頼区間により平成 25 年度と平成 22 年度を比較し震災前後の健康状態の変化を把握した。

3) 全市町村において各年度の年齢構成に大きな変動はないことから、年代別には区分せず分析を行った。

※割合の推定：各判定区分の割合を用いて標準誤差を算出。割合と標準誤差から95%信頼区間を算出した。

標準誤差：推定値の標準偏差

95%信頼区間：母集団の値が一定の確率で含まれる範囲。偶然誤差の大きさを提示。標本で得られた値に標準誤差の1.96倍の数値を加えたものと減じたものを95%信頼区間の上限と下限で提示する。

II 分析結果

1 受診者の状況

大船渡市、釜石市、大槌町、宮古市、山田町の5市町は、平成23年度の受診者数が他年度と比較して40～70%減少しているが、平成24年度以降は概ね震災前に近い受診者数となっている。男女比は、どの市町村もおおよそ4:6で女性が多い。年齢構成は、男女とも60歳以上が70～80%を占めている。

2 健診結果

各健診検査項目について該当者の割合を平成25年度と平成22年度でそれぞれ比較した。

平成25年度の95%信頼区間の下限が平成22年度の95%信頼区間の上限より上であれば該当者の割合が「増加」したとし、平成25年度の95%信頼区間の上限が平成22年度の95%信頼区間の下限より下であれば「低下」したとした。

平成25年度と平成22年度の比較結果、血圧を下げる薬を使用していると回答した項目で増加した市町村が多く、大船渡市の男性、陸前高田市の男女、宮古市の男性、久慈市の男性であった。次いで中性脂肪、LDLコレステロール、コレステロールを下げる薬を使用していると回答した項目で増加した市町村が多く、中性脂肪では陸前高田市の男女、岩泉町の男性、久慈市の男性、LDLコレステロールでは宮古市の男女、田野畑村の男性、洋野町の男女、コレステロールを下げる薬の使用で陸前高田市の男女、山田町の女性、久慈市の男性であった。

その他、メタボリックシンドロームでは陸前高田市の男性、BMIでは釜石市の男性、 γ -GTPでは釜石市の男性で増加していた。血圧判定では、釜石市の男性、久慈市の男女で増加がみられたが、大槌町の男女、山田町の男性、普代村の男性で低下していた。

III まとめ

平成22年度と比較し、平成25年度では脂質検査や薬を使用していると回答した項目で増加していた市町村が多かった。反対に、血圧判定では大槌町、山田町、普代村で低下していた。

また、今回の検討で「増加」という結果に至らなくても、各市町村においては平成22年度より上記判定区分（本文中「I-4-1」）に該当した割合が増えている健診検査等の項目もあるので、今後の経過を見ていく必要がある。

なお、本調査については同一人について受診結果を経年的に観察したものではないこと等踏まえる必要があり、結果については慎重な解釈が必要である。